

「デザインの考え方」の教科書①

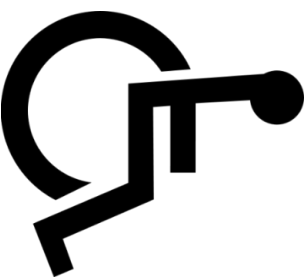
DEAUアカデミー

2ヶ月目はデザインです。

基本操作を理解してきたら、次は実際に作品を作成してみましょう。
実際に業務として作成する「作品」を作ることで、
実作業で必要な操作や制作のコツ、求められるスピード感や
データの取り扱い等を、「作品」を通じて学んでいきます。

ピクトグラム

ロゴ



“平成”PROJECT
HEISEI PROJECT



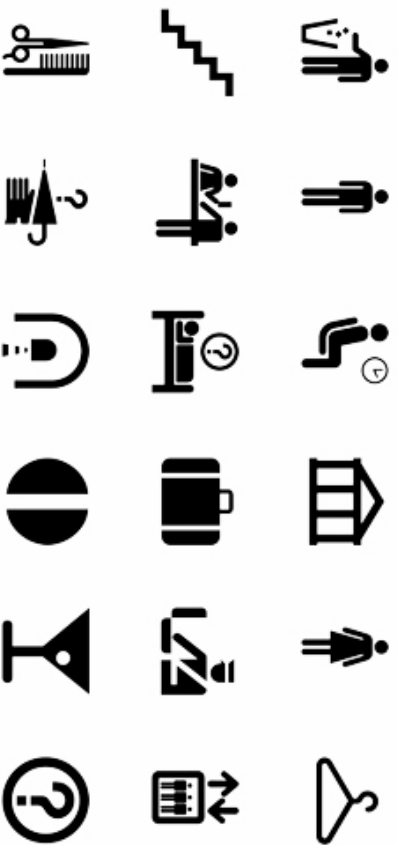
神奈川本牧

こどもクリニツク



Samplesd!

さんぷるずでいえる



検索ワード

ロゴ ピクトグラム



広島 八丁堀

ロゴ・ビクトグラムの制作

Illustrator（イラストレーター）を使って作成してみます。

ソフトの特徴、利便性を理解しながら作成し、後にポスターやWebサイトでの利用、その他動画コンテンツや看板利用など様々な用途に使えることをイメージしながら作成してみましょう。

まずはピクトグラム制作です。

何はともあれ、目的は ⇒

誰もがそう見えるように作る

一番の考案のポイントは「特徴を掴む」

まずは、思い当たる特徴を箇条書きするのも良いかもしれません。

例えば「サッカー」ならボール、シュート、キック、「野球」ならボール、バット、打つ、投げる

そうすると、例にある「サッカー」と「野球」はボールが重複してしまいます。そうなったら更に特徴を考える

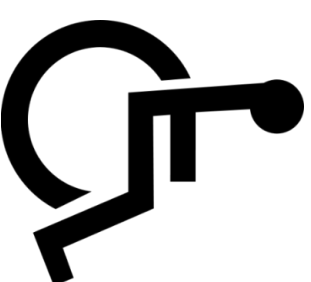
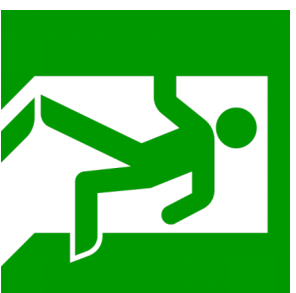
「サッカーボール」は、白黒の模様、大きさ、足で蹴る

「野球ボール」は、縫い目、大きさ、手で投げる

というような、特徴をまず整理していきましょう。

そして、その特徴をどう表現し伝わるデザインにしていくかを考えてみましょう。

ピクトグラム



検索ワード

ピクトグラム

コンポジットアドバイス

まずは検索や身の回りの物などを見るなどでリサーチしてみましょう。

例えば検索で「サッカーボール ピクトグラム」や「サッカーボール イラスト」「サッカーボール アイコン」と検索してみましょう。

世の中の多くの人たちが抱えているイメージがそこにあるかもしれません。

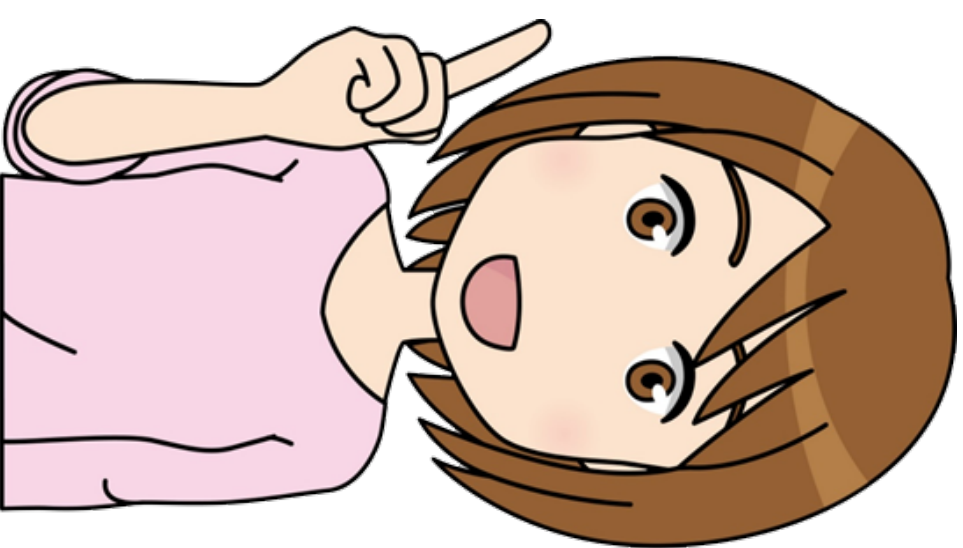
次に扱うソフトの特徴をイメージしてみましょう。

Illustratorを使うときならば、この機能を使えば作れる。

という操作イメージをしっかりと整えておきましょう。

またその操作の復習や確認を事前に行っておきましょう。

そして、準備が出来たら、後はとにかくいっぱい作ってみましょう。



ピクトグラムの役割

ピクトグラムは施設のサインや製品の使用方法、保管に関する注意などのあらゆる場面において、誰にでもわかるよう、物事を記号化して意味を伝えるものです。ひと目で理解できるような図案であることが重要で、細部まで詳細につくり込むのではなく、デフォルメし、情報を瞬時に伝えることを目的とします。

ユニバーサルカラーを考える

緊急を要する場合に使用されるピクトグラムは、すべての人に共通の見え方になることが求められる。たとえば、注意喚起というと赤を使ってしまいがちだが色覚障害者（P型やD型の色覚を持つ人）にはそれが赤だと認識されず、注意喚起の役割を果せない。そのため、特定の色だけを使って意味を表そうとするのではなく、明度差を明確にした図案を使用したり、地と図を区切るセパレーターカラーを適切に選んだりすることで、どのような人にもわかる絵柄を考えなければならぬ。

有彩色を組み合わせる場合は、PhotoshopやIllustratorのように色覚シミュレーション表示が可能なアプリケーションで確認しながらデザインするように心がけよう。

■ピクトグラムとは

文字はものの形を表した絵文字や象形文字から発展して、個別の文字へと形態が変化していったものです。ところが言語として複雑化するにつれて、1つの文字で意味を明確に伝えるという側面が薄れていきました。単語や文節で詳細に説明することは可能ですが単語のみですべての人がすぐに意味を理解することはどの言語においても難しいものです。それを補うのが「形」で意味を伝えるためのピクトグラムです。方向や動作、注意喚起など、単にものの形を図案化するだけでは不十分で、それ以上の働きを持ちます。ピクトグラムをデザインする際には、しっかりと形状であることはいくつでもありませんが、線の太さに気を配る必要があります。大きすぎたり細すぎたりしては判別が難しくなり、瞬時に見てとることができなくなってしまうからです。また、地と図で色のある部分と色のない部分が明確になっていることも重要です。的確に情報を伝えるためには、コントラストに差をつけておくようにしましょう。ピクトグラムはサイン計画などで用いることが多く、施設内などでは、共通した体験となるように、シリーズとしての統一感も欠かすことができません。なお、色は地域や文化によって意味が異なる場合もあり、必ずしも同じ色が共通の受け取られ方をしないことがあることも理解しておきましょう。

次はロゴ制作をしてみましょう。

ロゴ制作は、ピクトグラムの考え方にプラスして、「会社理念」「コーポレートカラー」「掲載箇所」等の「目的」を表現することが大事になります。

ピクトグラムにプラスした考案のポイントは「特徴を掴む」＋「目的の表現」

その目的をピクトグラムの時のように文字に箇条書きしてみましょう。

ピクトグラムと同じように、

例えば「飲食店のロゴ」なら商品内容、価格、歴史、場所「製品のロゴ」なら、製品の特長、使用頻度、価格、歴史
そうすると、例にある「価格」や「歴史」は目的が重複してしまいます。そうなったら更に深く特徴を考えて、
他業種や多ジャンルとの差別化を意識した表現を考えてみましょう。

そして、その目的をどう表現し伝わるデザインにしていくかを考えてみましょう。

ロゴ



さんぷるずでいえる



ハワイにありそうなおアオファース



広島 八丁堀

検索ワード

ロゴ

コンポジットアドバイス

ピクトグラムと同じように、

まずは検索や身の回りの物などを見てリサーチしてみましょう。

例えば検索で「カフェロゴ」や「珈琲 ロゴ」また「珈琲豆 ロゴ」と検索してみましょう。

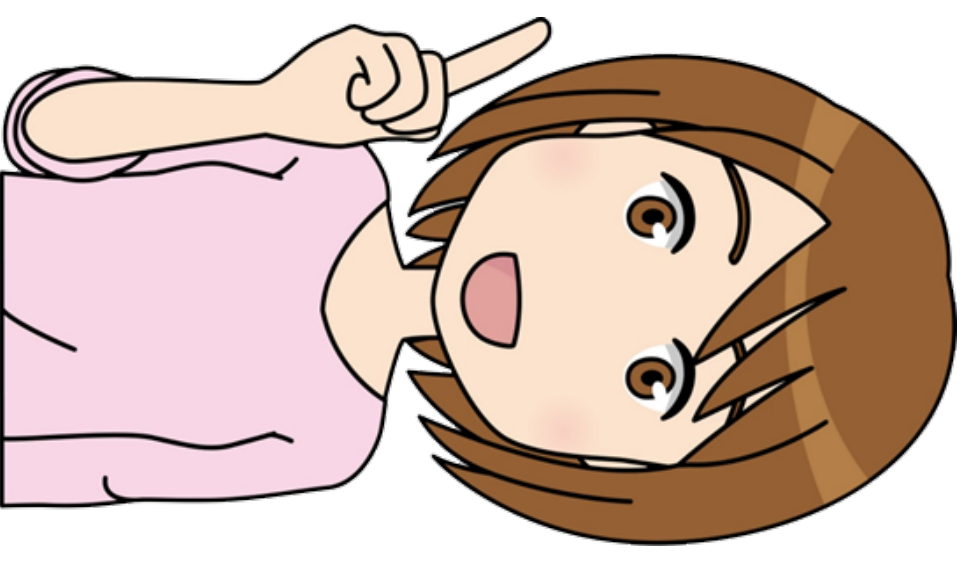
世の中の多くの人たちが抱えているイメージや、世の中に存在するロゴを見てみましょう。

そしてこれもピクトグラムと同じように、扱うソフトの特徴をイメージしてみましょう。

Illustratorを使うときならば、この機能を使えば作れる。

という操作イメージをしっかりと整えておきましょう。またその操作の復習や確認を事前に行っておきましょう。

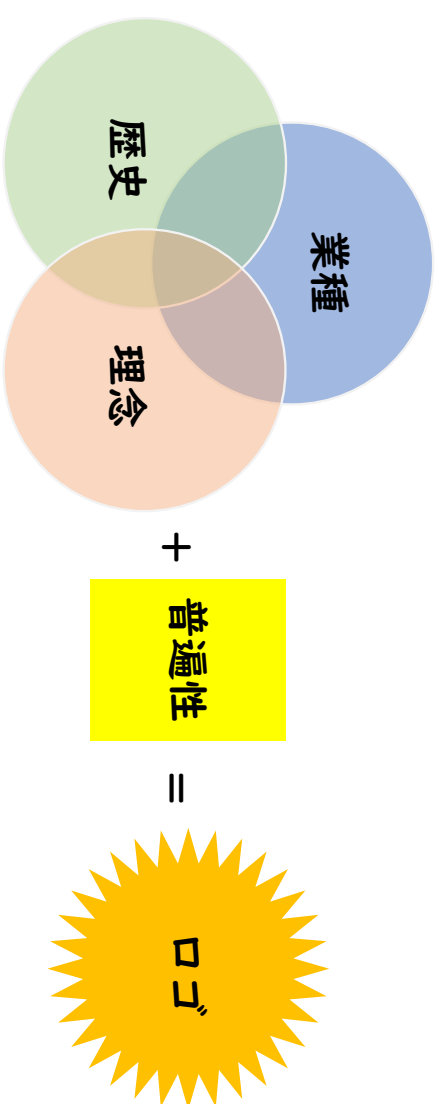
そして、準備が出来たら、後はとにかくいっぱい作ってみましょう。



ロゴマークの役割

ロゴマークは企業や製品を認知してもらうための顔となるもので、業種や理念などの意味を待たせてつくられます。一度デザインされたものは、数十年以上の長期にわたって使用されることも多い。色や形はどのような大きさでも、どのような媒体でも見えるように考えてデザインすることが大切です。

ロゴマークは、その会社や製品を現すためのバックボーンを明確にして、それらを具現化したものとして表現する。そのロゴは一度つくられたら何百年も使われるものという意識を持って普遍性のあるデザインにすることが大切。



■意味のあるロゴマークをつくる

ロゴマークは会社や製品を代表するものです。一度つくられたものは何百年も使われるかもしれないという意識を持ってデザインするべき重要な存在です。ロゴマークには、業種や理念を表し、これまでの歴史を伝えることはもちろん、これからの歴史を担うという意味を持たせる必要があります。"普遍性"が求められます。ロゴマークが使われる場面は、大きいものであれば街中のサイン、小さいものであればマニュアルの中の記載など、さまざまな使われ方があります。そのため、どのような場合や状況でも認識しやすい色や形であることが必要です。

実際にロゴマークを作成する場合は、会社や製品を特徴づけるキーワードを挙げ、言葉のグループ化とプライオリティを視覚的に整理していくことが第一となります。続いて、キーワードの中から重要と考えられるものを2つの輪にしたマトリクスを作成し、目標とするロゴマークの位置づけを決定していきます。こうすることでデザインする方向性がブレることなく、主旨を織り込んだロゴマークを作成することができます。実際に作成されたロゴマークは、デザインの意図に沿った使用規定を詳細に決めておく、どのような媒体でも何を通して同じ色で見えるようにしたり、あるいは必ず形状が同じに見えるように余白の指定を設定するなど、運用方法にまで気を配る必要があります。